

1 収穫に向けて

(1) 雑草等の除去

ほ場内の雑草が多いと、大豆の茎の乾きが悪くなったり、収穫時の汚粒発生の原因となります。収穫作業の妨げとならないよう、草丈の高い雑草はできるだけ抜き取るようにして下さい。また、わい化病にかかった株も「青立ち」となり、汚粒の原因となりますので、同時に抜き取るようにしましょう。

(2) 害虫防除について

アブラムシ類の寄生が多くなると、収穫した子実に排泄物や汁液が付着し汚粒の原因となります。また本年は、チョウ目害虫等による葉の食害が多く見られたことから、2回目の発生も多くなる可能性があります。

ほ場での発生や食害の状況を確認の上、発生が多い場合は防除をご検討下さい。なお、防除実施の際は収穫までの日数を確認の上、薬剤を選定しましょう。

【防除薬剤例】(登録内容は平成29年8月28日時点)

対象害虫	薬剤名	使用倍率	使用時期	使用回数
アブラムシ類	エルサン乳剤	1,000倍	7日前	2回以内
カメムシ類	スミチオン乳剤	1,000倍	21日前	4回以内
マメシクイガ				
アブラムシ類	ゲットアウトWDG	3,000倍	7日前	3回以内

2 収穫作業の留意点

子実水分が20%以下(最適は16%以下)で、茎に「ぬめり」のない(指でこすって「ぬるぬる」しない)状態が収穫開始の目安となります。刈り取り高さは通常7~8cmですが、曇天時や湿度が高い等、茎水分が下がりづらい場合は、汚粒発生を軽減するため、刈り取り高さを高くすることが望ましいです(高さ12cm程度まで)。

農薬の安全使用について

- 農薬散布に当たり、近接する作物へ飛散しないように十分注意しましょう!
- 農薬は必ずラベルを読み、使用量・時期・回数を確認し適正に使用しましょう!

農作業安全

- 収穫等、作業が忙しくなる時期ですが、休憩をとりながらなるべく無理のない作業を行なうようにして下さい。
- 作業機を始動する際は、声かけやクラクション等により、周囲への安全確認を行いましょう。